

序

管理栄養士は、「食と栄養と健康」の分野で科学的根拠にもとづいて栄養の実践活動を行うプロであり、人間の生存・活動を支える栄養（人間栄養）について高度な学識や技術が求められます。人間栄養を広く深く、正しく理解し、栄養と健康の維持・増進、病気の予防・治療における栄養の大切さを学ぶには、栄養現象の場である人体のつくり・しくみに関する知識基盤や科学的視点がとても大切です。

医学は、基礎医学（解剖学、生理学、生化学）と臨床医学（内科学、外科学）、また人体の構造は解剖学、機能は生理学というように縦割りの学問分野に区分されてきました。一方、管理栄養士養成課程では、「医学入門」にあたる「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」という専門基礎科目群が必修とされ、国家試験の出題基準はこれに沿っています。管理栄養士をめざす皆さんが人体の全体像を栄養と関連づけて理解するのに、このような分野横断的な学びが効果的だからです。そして、解剖生理学はまさにその中核科目です。

本書はこうした「人間栄養の理解のための解剖生理学」という考えに立ち、人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解することをめざしています。「テキスト」と「ワークノート」の2冊セットによる効果的な学習をねらった『栄養科学イラストレイテッド』シリーズの1つ「解剖生理学」のノート版です。

この自学自習用ノート版は、各項目の復習と理解度のチェックをしながら弱点を克服する構成となっています。まず、各章のはじめに学習内容のおよそをつかんでイメージづくりをし、「要点整理問題」で図示や用語の穴埋め問題などに取り組んで重要事項の理解を進めます。仕上げに、国家試験に準じた選択形式の問題に挑戦します。わからないところはテキストを併用して根気強く反復学習してください。プロに必要な豊かな応用力は、確かな基礎力の上に築きあげられます。スポーツの世界も同じで、プロとアマ（素人）の違いは、基礎力、それを育むトレーニングです。本書は記憶のストックづくりに大いに役立ちますが、さらに、“なぜだろう、ああそうか、なるほど、だとすると…”という知的トレーニングにもぜひ活用して下さい。

本書の執筆陣は、管理栄養士養成大学の教員として「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の教育・研究に携わった実績をもち、解剖生理学の学びと教えに精通しています。解剖生理学は、みなさん自身のからだのつくり・しくみ、そこで何が起きているかを学ぶ学問です。難解な用語や概念、新しいことながらもありますが、各執筆者が工夫を凝らした本書を通じて、みなさんが人体の巧みさ、素晴らしさを知り、なるほどと感じ、自分自身の体に関する身近な学問、人間栄養を理解するための基礎科目として、解剖生理学に親しんでいただけると幸いです。それが、国家試験で栄冠を勝ち取る近道です。

2010年3月

志村二三夫
岡 純
山田 和彦